

地図に図形を表示する

続いては、Google マップ上に図形を表示させる。そのためには、1-1 で学んだ Google マップを表示させるクラスに加えて、図形を表示させるクラスを用いる。今回は、Google マップ上に円を表示させるクラスを使って、指定した緯度経度に円を表示させてみる。フォルダ「1-2」直下の「main.js」には、以下のソースコードのうち黒字の部分(1-1 の「main.js」と同じ文)が記述されているので、その下の緑字の部分とその「main.js」に書き加えてアップロードし、地図の表示を確かめよう(今後、緑字の部分については「書き加え」を意味し、「+」より後の部分を書く。なお、「+」のみの行は空白行を加える)。

main.js

```
'strict'  
  
var map = null;  
  
function initMap() {  
  map = new google.maps.Map($('#map').get(0), {  
    center: {lat: 43.068543, lng: 141.351128},  
    zoom: 15  
  });  
+  
+ // circle  
+ var circle_coordinate = {lat: 43.076490, lng: 141.333961};  
+ var circle = new google.maps.Circle({  
+   map: map,  
+   center: circle_coordinate,  
+   radius: 100  
+ });  
}
```

上手くいけば、地図上の北大敷地内に黒い円が描かれているはずである(次ページ図)。

地図上に円を描くには、`google.maps.Circle`クラスを用いる(プログラム13行目)。14行目の「map」オプションで円を表示させる Google マップを指定し、15行目の「center」オプションで円の中心を指定している。円の中心の緯度経度は、その前の12行目で「circle coordinate」という変数に格納しているので、15行目では変数名「circle coordinate」で指定する。16行目の「radius」オプションは円の半径を実際の距離で指定するもので、m単位で指定できる。ここでは実際の大きさと半径100mの円を描いていることになる。

時間があれば、円の場所や半径を変えてみよう。

なお、11行目は円を描くことを明示しているコメントであり、プログラムの動作には関係ない(JavaScriptでは、1行のコメントには先頭にスラッシュを2つつける)。

